

令和 7 年度 第 1 回高知支部評議会 議事録

開催日時 令和 7 年 7 月 7 日（月）10：00～12：00

開催場所 高知支部大会議室

出席者 被保険者代表・・・市川評議員、岡本評議員、濱崎評議員
事業主代表・・・北岡評議員
学識経験者・・・西森評議員（議長）、竹島評議員

議題 1 令和 6 年度決算報告について

- ・事務局より令和 6 年度決算（見込み）のポイントについて説明。

（被保険者代表）

昨年 10 月から適用拡大により平均標準報酬月額が減少したとあるが、加入者の高齢化が進み、定年後再雇用や定年延長のケースも増えている。こうした年齢層の変化も平均標準報酬月額に影響しているのではないかと考えるが、その点についてはどうか。

（事務局）

ご指摘のとおり、協会けんぽの平均標準報酬月額は被保険者全体でみることになるため、加入者の高齢化や定年後再雇用・定年延長といった働き方の多様化も、全体の標準報酬月額に影響を及ぼしている可能性があります。

（被保険者代表）

準備金残高が 6.6 か月分となり、増え続けている点が気になるがその理由や今後の方針について確認したい。

（事務局）

2010 年度に国庫補助率が引き上げられて以降は単年度収支が黒字で推移し、準備金残高が積み上がっています。過去には保険料率の引き下げや社会情勢の影響で単年度赤字となった時期もあります。現在の準備金は中長期的に現行の保険料率を維持すべく、財政安定化を見据えたものだと考えています。

（事業主代表）

社会情勢の影響で単年度収支が赤字になったというのは、具体的にどのような状況だったのか。

（事務局）

2008 年のリーマンショック当時は景気後退の影響により、被保険者の賃金水準が下がり、それに伴って保険料収入が減少しました。

議題2 令和6年度事業報告について

事務局より、令和6年度事業報告、保険者機能強化予算執行状況について説明。

（被保険者代表）

レセプト点検について、誤りや不正請求が前提であれば査定率や査定額は高いほうが良いが、点検精度が高く適正請求が行われているなら、査定率・査定額はむしろ低いほうが望ましいのではないか。

（事務局）

レセプトは支払基金の一次審査後、協会けんぽで二次審査を行っています。個別性や請求内容のばらつきにより、依然として再審査対象は残っています。ルールに沿った正しいレセプトが増えれば、査定率や査定額は下がる傾向にありますが、全国的には高額レセプトを重点的に取り組む方向性があります。また、高知支部では、加入者に対する点検員数が多いため、軽微な内容まで丁寧に点検することが可能であり、その結果、1件当たりの査定額は下がるものの、査定効果そのものは適切に発揮されています。

（被保険者代表）

重大なミスや不正請求は論外として、査定が多く発生している医療機関に対しては、何らかの指導や対応を行っているのか。

（事務局）

一次審査を担当している支払基金では、医療機関ごとの診療内容の傾向などのデータを把握しており、それに基づいて個別の指導を実施していると聞いています。一方、協会けんぽでは、データの収集が難しく、効果的な取り組みができていない状況です。

（学識経験者）

今回の資料を見て、PDCA サイクルがどのように機能しているのかが気になった。自己評価の欄は KPI の達成有無にとどまっており、事業の内容によっては、そもそもの取り組み方や方向性自体を見直す必要があるのではないかと思う。目標が未達であった理由も、外的要因によるものか、内的な課題によるものかを分析しないと、次の改善につながらない。次の事業計画に今回の結果が反映されるはずだが、評価結果をどうチェックし、どのように次のアクションに繋げ

るのが課題である。KPI の設定自体に若干の疑問はあるが、達成できなかった理由やその妥当性について十分検証を行い、必要であれば「方向性が誤っていた」と評価することもあってよいのではないか。

（事務局）

先ほどのレセプト点検における査定額を例に挙げますと、加入者に対する点検員の人数などによって結果が左右される場合もあり、本当に適切な KPI かどうかというご指摘は一理あると思います。ただし、私どもとしては、あくまで目的達成に向けた 1 つの指標として設定しています。KPI の中には、全国の実績を積み上げたうえで本部が目標を設定している項目もあり、そのため支部ごとに難易度の差が生じることもあります。

（被保険者代表）

ジェネリック医薬品の使用が選定療養費制度の影響もあり増加傾向にあるが、いっそのこと基本をジェネリックとし、先発品を希望する場合にのみ自己申告とするような制度に転換できないか。また、生活習慣病予防健診を受診しない人の保険料負担を引き上げるといった仕組みも検討できないか。いずれも制度変更を伴うため、関係機関との調整が難しい点は承知しているが、逆転の発想として提案したい。

（事務局）

ご存じの通り、先発医薬品とジェネリック医薬品の価格差のうち 4 分の 1 に相当する額を、患者負担とする選定療養費制度の仕組みが導入されており、国としてもある程度、強い姿勢で推進していく方針と受け止めています。また、現政権下においても、保険制度は本来、大きなリスクに備えるものであるという考え方に立ち、風邪薬のような薬局で購入可能な軽微な医薬品については、保険給付の対象外とする考え方も議論されています。

（学識経験者）

ジェネリック医薬品の使用促進について、最終的にどのような状態や目標を目指しているのか。

（事務局）

今後は、ジェネリック医薬品について、数量ベースだけでなく金額ベースでも使用割合の拡大を図っていく方針です。また、がんなどの治療に用いられるバイオ医薬品の後続品である「バイオシミラー」についても、加入者や医療機関への理解促進を図りながら、使用率の向上を目指してまいります。

（学識経験者）

予算の執行状況の資料については、内容によってはパーセンテージ表記の方が把握しやすい場合もあるため、差し支えなければパーセンテージも併記してほしい。

（事務局）

わかりました。次回からそのように対応します。

（被保険者代表）

重症化予防対策の KPI は達成しているが、業種別にみると、どの業種で特に実績が伸びているのか把握できるのか確認したい。

（事務局）

現時点では、どの業種で実績が伸びたのかまでは分析できておりませんが、データとして抽出することは可能ですので、いずれかの機会にご報告させていただきます。

（被保険者代表）

この質問をした背景には、運輸交通業における有所見率が高知では特に高く、全国的にも同様の傾向があると認識しているため、その点との関係性を確認したかったという意図がある。

（学識経験者）

業界別に傾向があるのであれば、今後の重点的な取り組みとして、特定業界に絞った対応も検討できるはず。傾向があるかどうかを把握することも検討してほしい。

（事業主代表）

運輸業の許認可においては運転手の健康管理が義務付けられている。本来であればそうした理由で健診受診率が上がるのは望ましくないが、そのような背景も一因となって受診率が上昇している可能性がある。もしそういった関連データがあれば、ぜひ示していただきたい。

連絡事項

次回評議会は、令和 7 年 10 月に開催予定。